

## こぶとりじいさん

むかし ところ おお  
昔、ある所に、ほほに大きなこぶがある、きこりのおじいさんがいま  
した。ある日、いつものように山の中で、木を切っていると、急に空がく  
もって、大粒の雨がザーザーと降り出しました。ピカピカといなずまがひ  
かって、ゴロゴロとかみなりもなり出しました。仕方なく、おじいさんは、  
ちか ふる こや なか あめ ま  
近くの古い小屋の中であまやどりする（雨がやむまで、待つ）ことにしま  
した。けれども疲れていたのでねてしまいました。

そと ひとごえ め そと み  
外でガヤガヤとおおぜいの人声がしたので目をさまし、外を見て、びっ  
くりしました。あか あお あつ の  
赤おにや青おにが集まって、にぎやかに、飲んだり、うた  
ったり、おどったりしていました。おじいさんは、戸のすき間から、ふるえ  
ながら見ていました。しかし歌やおどりが、とても楽しそうなので、こわさ  
わす なか で  
を忘れて、おにたちのわの中に、おどり出ました。そして、むちゅうでおど  
りました。

はじ じょうず  
おにたちは、初めはびっくりしましたが、とてもおどりが上手なので、  
おお はくしゅ ばん き  
大よろこびで拍手をしました。おにのかしらは「あしたの晩もぜひ来てお  
どってくれ。来ないと困るから、こぶをあずかっておこう」と言って、おじ  
いさんのこぶをもぎとりました。おじいさんは「あっ！」とおどろきました  
が、ぜんぜんいたくありませんし、かおがかるくなって大よろこびで、家へ  
かえ  
帰りました。

さて、この <sup>はたら</sup> <sup>もの</sup> 働き者のおじいさんの家 <sup>いえ</sup> のとなりに、もう一人 <sup>ひとり</sup>、いじわるなおじいさんがいました。このおじいさんも、<sup>はんたい</sup> 反対のほほに <sup>おお</sup> 大きなこぶがありました。いじわるじいさんは、おに <sup>はなし</sup> の <sup>き</sup> 話を聞くと、<sup>おも</sup> うらやましいと思いましたが。それで「わたしも、おに <sup>と</sup> に <sup>い</sup> こぶを取ってもらおう」と言って、いそいで、<sup>やま</sup> <sup>で</sup> 山へ出かけました。

となりのおじいさんは、<sup>あめ</sup> <sup>ふ</sup> 雨が降っていないけれど、<sup>こ</sup> <sup>や</sup> <sup>なか</sup> 小屋の中にかくれて待ちました。おに <sup>かい</sup> <sup>はじ</sup> たちのえん会が始まりました。となりのおじいさんは、こわくてふるえていましたが、「さあ、<sup>いま</sup> 今だ！」と <sup>そと</sup> <sup>だ</sup> さげんで、外へとび出しました。そして、<sup>かた</sup> おどり方がぜんぜんわかりませんので、でたらめにおどりました。とても <sup>へ</sup> <sup>た</sup> 下手で、へんなおどりでした。

それでおにたちはびっくりしました。おにたちは「ゆうべのおどりはとてもおもしろかったけど、<sup>こんや</sup> 今夜のおどりはぜんぜんおもしろくない。こんな <sup>へ</sup> <sup>た</sup> 下手なおどりは <sup>み</sup> 見たくない。」と言いました。

おにのかしらも「ゆうべのこぶは <sup>かえ</sup> <sup>かえ</sup> かえすから、もう <sup>かえ</sup> <sup>かえ</sup> 帰れ帰れ！」とおこった声 <sup>こえ</sup> で <sup>な</sup> さげんで、となりのおじいさんのほほに <sup>おお</sup> こぶを <sup>な</sup> 投げました、大きなこぶが <sup>に</sup> 二つになってしまったおじいさんは <sup>な</sup> 泣きながら、<sup>いえ</sup> <sup>かえ</sup> 家に帰りました。